



進路だより

平成29年10月5日
Vol. 4

就職戦線も後半戦へ！



9月16日に一斉に開始された今年度の就職試験から約半月。これまでの学習の成果が試される学科試験、緊張の面接試験を経て、合否の結果が日々届いています。

今年度は県内外問わず、売り手市場の様相を呈していました。それにも増して生徒の頑張りもあり、結果は右の表のとおりです。

高校卒業時は正社員として働くための最大のチャンスです。一度目で内定が決まらなかった人も今後粘り強く活動を続け、内定を勝ち取るまで、前向きにチャレンジしていきましょう。

その反面、就職希望者の約4割が未だに出願すらしていません。希望の職種等が見つからないのか、じっくり構えて様子を見ているのか分かりませんが、時間ばかりが経過していきますよ！

2年次生の就職希望者は、あと1年を切ったこととなります。今からやるか、やらないで来年度を迎えるか、自分次第です。まだ間に合います。もちろん1年次生も！

<民間就職状況>

10月4日現在

		希望者数	出願者数	内定者数	内定率(%)
県内	男	14	7	3	21.4
	女	7	5	4	57.1
計		21	12	7	33.3
県外	男	6	5	4	66.7
	女	4	2	2	50.0
計		10	7	6	60.0
計	男	20	12	7	35.0
	女	11	7	6	54.5
計		31	19	13	41.9

進学希望者はこれから勝負！



すでに受付が始まっている所もありますが、10月から受け付けを開始する大学等が多いようです。指定校推薦は「秋田明德館という学校への信頼と、すでに入学している先輩方の姿勢と実績の評価」の結果です。指定校推薦での進学を考えている人は、これまでの先輩方の実績と評価を下げることがないような努力が必要です。

また、大学に入ると英語の勉強で一番苦労すると言われていています。ほとんどの大学では英語が必修です。「高校時代にもっと英語を勉強しておくべきだった。」という声をよく聞きます。

「部活動が忙しくて勉強する暇がない。英語の勉強なんて無理…」と言っている人は進学自体を考え直す必要があるかもしれません。高校の何倍も勉強が必要な大学では時間を有効に使うことも必要です。今からでも英語の勉強に力を入れ、本気で取り組みましょう。

進路の手引きにも書いてありますが、専修学校希望者は、改めて自分の希望や適性と合うかどうか、選択は慎重に行うべきです。専修学校は狭い範囲の専門分野を深く勉強する所です。また学校数も多く、学校によって規模、教育内容等に差異が大きいため、それぞれの学校の特徴をあらゆる角度から吟味し、悔いのない選択をしてください。

進路指導は生徒指導！



高校を卒業して就職した生徒のうち、3年後までにおよそ半数が離職しています。

その原因は、コミュニケーション能力の不足、常識やマナー・協調性や忍耐力が無いなど、社会人として求められる力が欠如していることであると言われていています。

「自分の行動が他人にはどう見られるのか」「自分の立場だけではなく他人の立場を思いやる行動ができるのか」「人に迷惑さえかけなければ何をしてもいいのか」等々・・・

自分の行動を振り返ってみましょう。進学や就職に関わらず、人と人の間に生きる人間として、誰もが省みるべきことです。